

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市全体の共通指標では、「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」児童の割合が8割を超え、課題探求的な学習の素地が身に付いてきている。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標では、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」児童の割合が8割を超え、協働的な学習に取り組もうとする意識が向上している。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標では、「自分のよいところがある」「人のよいところを見付けようとしている」児童の割合が8割を超え、相互承認の感度の高まりが感じられる。</p>
	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果から、国語・算数・理科ともに全国平均を下回る結果となり、基礎学力の定着に課題が見られる。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標では、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」児童の割合が低く、他者との対話に自信をもていない児童が多い傾向にある。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標では、「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合が低く、学習に対して見通しをもてたり、主体的に学べたりできている児童が少ないことが課題としてあげられる。</p>
	<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市全体の共通指標では、「人の役に立ててうれいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童の割合は9割近くいるが、一方で「自分を必要とされていると感じる」児童の割合は7割を下回っている。</p> <p>◇日頃の学習から自分の学びを振り返ることで、自分や他者のがんばりを認め合い、互いの成長を実感できる授業改善を行う。また、各行事や学級活動においては、子ども一人一人に自分の役割を意識させ、互いのがんばりが見えるような工夫を行い、子ども同士の相互承認の感度を高めていくことを大切にしていく。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

全員参加！主体的に学ぶ子どもの育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究副主題「問いを見つけて「わかった」を実感できる授業」に基づき、教職員が互いの授業案や問いをもつための手立てを交流するまなびタイムや学年打合せ、職員会議の時間に設定する。</p> <p>(2) 学習課題の解決に向けて、子ども自ら問いをもてるように、<u>授業の導入を工夫したり、自分の考えを整理し、お互いの意見を聞き合うためにペア・グループ活動を取り入れたりする。</u></p> <p>(3) AAR サイクルを意識した授業づくりに向けて、子どもが自分の現在地を把握できるように、「わがとも」をキーワードとした振り返りの充実を図る。</p>	<p>①生活上の諸課題について、<u>子どもたち自身に「どうすればよくなるか」を考えさせたり、各学級の目指すべき姿を決めさせたりする機会を設定する。</u></p> <p>②縦割り活動（七色活動）では、<u>高学年に限らず全学年に役割を与えることで、子どもたちが主体となって活動を企画・運営できるようにする。</u></p> <p>③全校朝会において、<u>各委員会から全校児童に活動を伝える場を設定することで、子ども発信による委員会活動ができるようにする。</u></p> <p>④小中合築のよさを生かし、<u>中学校の生徒会活動との連携の充実を図るようにする。</u></p>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇（2）では、単元によっては、各ツールの利点を生かしながら子どもたちが自分自身の考えを表出できるように指導する。また、（3）では、子どもの特性に合わせた振り返りの方法を選択できるよう ICT ツールを活用する。</p> <p>◇委員会活動において、活動や記録を子ども同士が共有できるようにクラスルームを活用し、子どもの声がより反映されるように工夫する。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

